

受講番号 18054 学校名 城西中学校 氏名 田内 三恵

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 第2学年 生徒数 86 名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 New Horizon English Course

クラスの様子・特徴

比較的落ち着いて学習に取り組むことができる。しかし、学習意欲があまり見られない生徒も存在する。グループ活動を取り入れると、協力して取り組むことができる。

問題の確定

アンケートでは書くことに苦手意識を持っている生徒が多く、CRTでも書く力がやや弱く、その手だてが必要である。

予備調査

A 授業の観察

全体的に静かである。発音・音読の声が小さい。自主的な発表が少なく、反応も弱い。自信がない生徒が多く、個人で行う活動より、班やペアなどの小グループで行う活動を好み、その時は全員取り組める。

B 生徒による授業評価

「分かる、楽しい授業」を望んでいる生徒が多い。2年生になって難しくなったと感じている生徒が多い。説明など日本語のスピードが速いという指摘があったので、直していくよう努力している。班活動は分からない所が聞けるので好評である。

C 学力データ

4月当初、ALTへの自己紹介文を書く活動では、書けない生徒があり、CRTの調査では、書くこと、読むこと、話すこと、聞くことで平均よりやや弱いと思われる。

リサーチ・クエスチョン

自己表現力(書く力)を伸ばすためにはどのようにすればいいか
 (ゴールは関連性のある文を5文以上書けること)

仮説・実践・検証

仮説1

単語ゲームや、小テストなどを取り入れて、書く活動を取り入れれば、語力がつかる。

実践1

ユニットごとに読み方も書いてある単語リストを渡し、読みの確認をペアで行った。授業では単語が書けるようになるためのステップとして読めることを重視した。読み、意味の確認ができた次時には単語テストを行い、書く力をみるようにした。単語リストをそのまま活用しテストしたので、負担なく行えた。各ユニットごとに単語テストを実施できた。単語ビンゴやしりとりは実施できなかった。

検証1

班の中でペアを作り、読みや意味をチェックさせたのはよかった。ほとんどのペアが取り組み、読めるようになった。単語リストがおおむね役に立ったと答えた生徒は80%以上であり、おおむね単語が読めると答えた生徒は75%以上であった。授業の中で単語テストに取り組み、定期テストにも出題した。その結果平均して中間テストでは10問中6問、期末では7問、書けていた。しかし1問も書けない生徒も存在している。

仮説2

新出文型を学習した後、単語カードを並び替えて、英文を作る活動をすれば、語順が定着するだろう。

実践2

活動に参加させるために、ペアやグループを作って取り組んだ。カードを使い、正しい語順・意味の通る文をできるだけたくさん作る活動、スラッシュごとに日本語を片方が言い、もう片方が英語に直す活動、音読筆写、新出文型をペアで会話し、毎回ではないが、その後ノートに書く活動などを行った。2学期の基本文が助動詞や節だったので、単語カードを並べ替えて文を作る活動はほとんどできなかった。

検証2

新出文型をペアで会話しその後、英語を書く活動ではペアの会話ができているかに意識がいきつしまい、あまり書く時間がとれなかった。文型の定着のために音読筆写を取り入れた。ほぼ全員の生徒が取り組み、英文を覚えるのにおおむね役に立ったと答えた生徒が約80%であった。しかし音読筆写が語順の確認には役に立ったとあまり思わない生徒は35%いる。別の活動から語順の定着を図ってきたい。

仮説3

新しい文法や表現を使い、モデル文を参考にしながら英文を書く機会を多くもてば書く力の向上につながるだろう。

実践3

教科書の「私の夏休み」のテーマでモデル文を参考にしながら、作文を作った。学期末には復習をかねて、2年生で習った表現や文法を使って自己紹介文を書いた。辞書を使って書くことは慣れたようだが、使いこなすには至っていない。教科書の文を参考に書くのはまだまだ苦手なようであり、活用できていなかった。

検証3

2学期のまとめとして4月と同じテーマ「自己紹介」で英文を書かせた。4月には名前も書けていない生徒もいたが、今回の「自己紹介文」ではほとんどの生徒が英文を書くことができた。設定したゴールを通過したのは60%、4文(もう少しでゴール)を含めると75%であった。Ifやbecauseでつなぐ文など学習したの複雑な文にチャレンジできていた。生徒が書きたい文にあてはめて主語・動詞という語順を確認できた。

研究の成果

単語テストが今まで単発で終わっていたが、2学期には継続して取り組めた。必ずユニットの終わりにテストをすることが定着してきた。グループやペアで課題を達成する活動だけでなく、個人でできる作業などもできるだけグループを使い、一斉授業では参加できない生徒も学べるようにした。2年生で習った文型・表現を使って英文を書く時間が設定できた。授業の中で、定期テストで書く場面を設定し、「書くこと」への抵抗感をなくすようにした。定期テストに必ず自己表現コーナーを設けたことで、生徒も学習の対策もたてやすく、書くことに対しての意識が高まったように思う。

今後の授業改善の課題

話すことに時間が割かれてしまい、話したことを英語で書いてみるという筋道を作ることができなかった。自己紹介文を書かせたときの間違いを全体の前でフィードバックし、みんなのものにしていきたい。2学期にできなかった単語カードの並び替えを実施し、語順の定着を図ってきたい。意欲のない生徒に対する手だてとして、グループ活動の課題の設定の仕方、声のかけ方など考えていきたい。